

## 研究・調査報告書

分類番号		報告書番号	担当
A-153		16-131	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門
<b>題名（原題／訳）</b>			
<p style="text-align: center;">Contextual Factors and Mental Distress as Possible Predictors of Hazardous Drinking in Norwegian Medical Doctors: A 15-Year Longitudinal, Nationwide Study.          ノルウェーの医師における危険な飲酒の予測因子としての環境因子と精神的ストレス：15年追跡研究</p>			
<b>執筆者</b>			
Mahmood JI, Støen Grotmol K, Tesli M, Vaglum P, Tyssen R.			
<b>掲載誌</b>			
Eur Addict Res. 2017;23(1):19-27. doi: 10.1159/000452442. Epub 2016 Nov 11.			
<b>キーワード</b>			<b>PMID</b>
医師、飲酒、ノルウェー、環境因子、ストレス、性格			27832645
<b>要 旨</b>			
<b>目的：</b>			
医師の卒後15年のキャリアの中で、仕事と生活上の環境因子と精神的ストレスが危険な飲酒（AUDITの9項目で判定）の予測因子となるかを検討した。			
<b>方法：</b>			
4大学での2つのコホートを合わせた1,052人について解析した。T1：医学部最終学年（1993/1994年）、T2：卒後4年、T3：卒後10年、T4：卒後15年について検討した。			
<b>結果：</b>			
1,052人のうち42%が4回すべての質問に回答し、少なくとも1回以上の回答をしたのは90%だった。危険な飲酒はT1で16%、T2とT3で14%、T4で15%だった。男性、宗教活動がないこと、緊張の緩和目的の飲酒習慣、性格上まじめさが低いことに加えて、ライフイベント(p=0.009)と精神的ストレス(p=0.002)はともに危険飲酒の予測因子として統計的に有意な関連を認めた。			
<b>結論：</b>			
卒後15年間の医師における危険な飲酒の予測因子として、仕事上のストレスは関係がなかったが、ライフイベントと精神的ストレス、ストレス緩和のための飲酒習慣は関連が認められた。特に男性医師のこれらに対する心理的アプローチが重要と考えられた。			